

松任駅南にぎわい創出実態調査事業(白山市委託事業)

団体名 ● 経済学部 / 代表者名 ● 新広昭(経済学部教授)・木村正信(経済学部教授)・牧野耀(経済学部助教)

はじめに

本事業は、本学と白山市との包括連携協定に基づき実施される事業で、白山市の鉄道交通の拠点施設である松任駅南側地区のにぎわい創出を目的に、日頃の利用者層やそのニーズの実態把握と松任駅南地区周辺が日常的に賑わうためのアイデアについて、学生の視点からの提案を行うものです。白山市(企画課)と協議のうえ下記の調査項目を設定し、3ゼミで分担して取り組みました。

- ・松任駅周辺の文化施設の利用者アンケート調査
- ・松任駅周辺の文化施設等の職員からの利用状況等の聞き取り調査
- ・白山市のエリアマネジメント取組み状況ヒアリング調査
- ・松任駅南口のまちづくりに対する意識アンケート調査
- ・白山市の高校生対象の駅利用アンケート調査



3ゼミ合同現地視察(8/10)実施

1. 新ゼミナール

活動内容

新ゼミナールでは、松任駅周辺の文化施設等(松任図書館、千代女の里俳句館、おやこの広場あさがおなど)の利用者(77名:男33%、女66%)へのアンケート調査、施設職員への聞き取り調査及び松任駅利用者の人の流れ(動線)調査を行いました。

成果、結果の考察

【文化施設等利用者へのアンケート調査結果】

- ・交通手段
俳句館と図書館の利用者は徒歩・自転車が一定数いるが、車利用が主体
- ・施設の知名度
文化的施設 > 歴史的建造物(施設別では図書館が最も高く、北国街道の石碑が最も低い。)
- ・施設利用度
図書館が最も高く、あさがおが最も低い。
- ・松任駅周辺で開催されるイベントへの関心・参加
行ったことがある人、知っている人の割合
松任城址公園・花見(43%・29%)、千代女あさがおまつり(42%・35%)、マルシェドウ白山(29%・35%)、LIVEサーキット(6%・35%)
- ・これからの予定(どこに向かうか)
家に帰る(73%)、駅周辺以外の施設に寄る(14%)、駅周辺の施設に寄る(13%)

【文化施設等利用者の回遊性向上の提案】

- ・地元民の憩いの場を作る(カフェ、休憩所など)
- ・車以外の交通手なでのアクセス性の向上
- ・歴史的建造物のアピール⇒インバウンド観光客の誘客を図る など

今後の課題、展望

アンケート調査では、駅周辺に魅力的な施設が多く立地しているにもかかわらず、地元の人間がその魅力を十分に認識していない現状が浮かび上がってきました。インバウンドを中心に域外の観光客に施設の魅力をアピール・来訪してもらうことにより、地元住民に再認識してもらう取り組みが重要です。

2. 木村ゼミナール

活動内容

松任駅周辺アンケート調査(回答数 120名)

調査期間 2019年12月～2020年1月

調査項目

- ・デモグラフィック(性別、年齢、居住エリア、居住年

数、世帯数、職業)

- ・松任駅の利用状況
- ・松任駅南口のまちづくりに対する質問項目(まちの賑わいづくり、防災・防犯・環境維持、地域ルールづくり・コミュニティづくり、まちの情報発信、公共施設・公共空間の整備・管理、民間施設の公的利活用)

白山市へのヒアリング調査

白山市のエリアマネジメント実施有無に関するヒアリング

成果、結果の考察

要藤(2018)によれば、まちづくりの分野では、都市計画やそれに基づくインフラ整備など公的な主体による取り組みがその中心的な役割を果たしてきたが、近年、エリアマネジメントと呼ばれる地域住民を主体とした官民連携によるまちづくりが各地で行われているとしています。また、内閣府(2019)に「地方創生まちづくり－エリアマネジメント－」から、地域住民主体のエリアマネジメント活動によって賑わいを取り戻した自治体も数多く存在していることもわかっています。そこで本研究では、賑わい創出のためには地域住民の意識が重要であると考え、まず、松任駅南口地区の住民に対してエリアマネジメントについての意識調査を行いました。そして、白山市にも同様のヒアリング調査を行い、住民の意識と自治体の取り組みの差について考察し、松任駅南口地区の賑わい創出のためには何が必要であるかを整理し、まとめました。

今後の課題、展望

アンケート調査から住民のエリアマネジメント(官民一体の街づくり)の手法を用いたにぎわい創出に関する意識は高いことがわかりました。しかし、アンケートの記述回答の中から、にぎわい創出ではなく、静謐な環境を求める意見も存在しています。これはライブハウス(Zepp)の建設の賛否をめぐり、住民の間で意見が割れている、西金沢駅の様態とも似て

います。松任駅周辺や西金沢駅周辺のように住宅がそれなりに密集しているエリアでは、にぎわいだけではなく静かな住環境を求める意見も少なくはないので、それらのどこでバランスをとり、街の発展を目指していくべきなのか、積極的に民間の意見を取り入れながら模索していかなければなりません。

3. 牧野ゼミナール

活動内容

現地調査を行い、駅前のスペースは広く余裕があり、歴史的な通りは掲示や案内を工夫して魅力的な街並みにできる可能性があるという意見が出ました。

さらに白山市の高校生を対象とした実態調査のアンケート調査を行い、計786名分の回答が得られました。調査の結果から、飲食店やアミューズメント施設、本屋、カフェが欲しいという意見があること、お祭りやライブがあれば行きたいという意見があることがわかりました。一方で、不便、不満に感じている点は、商業施設の数、交通の便の悪さ、街灯の少なさなどが挙げられました。

成果、結果の考察

質問項目間の相関分析の結果からは、松任駅をよく利用する人は愛着も高いことがわかり、松任駅周辺に訪れたいようになるように環境を整えることは松任という地域への愛着にもつながると考えられる結果がありました。これらの結果を踏まえ、学生視点の活性化案として、駅から商店街までを「歴史映えエリア」にするという案が出されました。

今後の課題、展望

今回の調査と検討により若者から見た松任駅の現状やニーズがある程度把握されました。しかし、実現には運営方法や人材、収益など具体的かつ現実的なプランが必要です。白山市との協力により、実現可能性を高めていくことが重要です。